

4 果 樹


項 目	作 業 内 容																																																																			
<p>(1) 果樹の生育状況</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果樹の生育状況 ○温州みかんの生産対策 ○キウイフルーツの人工受粉 ○病虫害防除 <p>1 か月予報では天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。(4月27日高松地方気象台発表)。着花管理に重要な時期であるため、気象情報に注意して計画的に作業を行う。</p> <p>5月のかんきつ類、キウイフルーツやかきなどの開花期である。発芽の状況は、平年に比べ早生温州みかんで5日早く、伊予柑で4日早く、発芽量は概ね中程度である。また、キウイフルーツ(ヘイワード)は2日早く、富有柿は11日早い(下表)。</p> <p>表 愛媛県における果樹の発芽日</p>																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>年度</th> <th>発芽日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">早生温州</td> <td>2023</td> <td>3月27日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月1日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">普通温州</td> <td>2023</td> <td>3月29日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月4日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">伊予柑</td> <td>2023</td> <td>3月23日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月27日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">不知火</td> <td>2023</td> <td>3月25日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月30日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ぼんかん</td> <td>2023</td> <td>3月24日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月28日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">清見</td> <td>2023</td> <td>3月20日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月24日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">河内晩柑</td> <td>2023</td> <td>3月20日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月26日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">せとか</td> <td>2023</td> <td>3月30日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月5日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">はれひめ</td> <td>2023</td> <td>4月4日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月7日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">愛媛果試第28号 (紅まどんな)</td> <td>2023</td> <td>3月23日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">甘平</td> <td>2023</td> <td>3月25日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月30日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">キウイフルーツ (ヘイワード)</td> <td>2023</td> <td>3月28日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月30日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">富有柿</td> <td>2023</td> <td>3月15日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月26日</td> </tr> </tbody> </table> <p>各地域農業育成室による定点調査(農産園芸課高度普及推進Gまとめ)</p>	種 類	年度	発芽日	早生温州	2023	3月27日	平年	4月1日	普通温州	2023	3月29日	平年	4月4日	伊予柑	2023	3月23日	平年	3月27日	不知火	2023	3月25日	平年	3月30日	ぼんかん	2023	3月24日	平年	3月28日	清見	2023	3月20日	平年	3月24日	河内晩柑	2023	3月20日	平年	3月26日	せとか	2023	3月30日	平年	4月5日	はれひめ	2023	4月4日	平年	4月7日	愛媛果試第28号 (紅まどんな)	2023	3月23日	平年	3月31日	甘平	2023	3月25日	平年	3月30日	キウイフルーツ (ヘイワード)	2023	3月28日	平年	3月30日	富有柿	2023	3月15日	平年
種 類	年度	発芽日																																																																		
早生温州	2023	3月27日																																																																		
	平年	4月1日																																																																		
普通温州	2023	3月29日																																																																		
	平年	4月4日																																																																		
伊予柑	2023	3月23日																																																																		
	平年	3月27日																																																																		
不知火	2023	3月25日																																																																		
	平年	3月30日																																																																		
ぼんかん	2023	3月24日																																																																		
	平年	3月28日																																																																		
清見	2023	3月20日																																																																		
	平年	3月24日																																																																		
河内晩柑	2023	3月20日																																																																		
	平年	3月26日																																																																		
せとか	2023	3月30日																																																																		
	平年	4月5日																																																																		
はれひめ	2023	4月4日																																																																		
	平年	4月7日																																																																		
愛媛果試第28号 (紅まどんな)	2023	3月23日																																																																		
	平年	3月31日																																																																		
甘平	2023	3月25日																																																																		
	平年	3月30日																																																																		
キウイフルーツ (ヘイワード)	2023	3月28日																																																																		
	平年	3月30日																																																																		
富有柿	2023	3月15日																																																																		
	平年	3月26日																																																																		

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 温州みかんの生産対策</p>	<p>ア 芽かき 着花の少ない樹では、新梢の発生が多く、花と新梢間の養分競合が起こり、生理落果が助長される。結果率を高めるために着花を確認後、着花部位周辺の芽かきとかぶさり枝を除去し、花に光を当てて養分競合を防ぐ。</p> <p>イ 摘蕾 着花の多い樹では、側枝単位で摘蕾を行い、新梢を発生させる。摘蕾は蕾が膨らみかけて開花するまでが適期であり、遅すぎると新梢の発生が悪くなるので、直花が団子状に着いた、極端に花の多い樹から行う。</p> <p>ウ 液肥の葉面散布 貯蔵養分が不足している樹の樹勢の回復と、健全樹においては新梢の充実、果実肥大促進を目的として、開花前にチッ素主体の液肥を数回、葉面に散布する。</p> <p>エ 夏肥の施用 5月は地温の上昇に伴って根の活性が高まり、肥料の吸収効率が上がる。夏肥は樹勢の維持、果実肥大、新葉の充実を図るための大切な肥料である。施肥量については、今年の着花状況に応じて調整し、普通温州では10a当たりチッ素成分量で5kg程度を5月下旬に施用する（愛媛県施肥基準）。</p>
<p>(3) キウイフルーツの人工受粉</p>	<p>人工受粉は、結実安定や大玉生産のために欠かせない作業である。雌花の受粉能力は開花当日～1日後までが高く、その後は低下することから、開花後直ちに雌しべの柱頭部にしっかりと花粉が着くよう受粉する。受粉中や受粉後の降雨は受精に影響するため、悪天候時は受粉を控える。</p> <p>液体増量剤を利用した液体受粉は、作業時間が梵天受粉の45%、機械受粉の70%程度の処理時間となり、多少の雨でも従来の粉末受粉と同等の効果が得られることから、経済性、作業性の面で有効である。ただし、受粉効果の実証された「ハイワード」を中心に利用する。</p> <div data-bbox="944 1417 1374 1780" data-label="Image"> </div> <p>写真1 液体受粉後の雌花</p>

項 目	作 業 内 容
(4) 病害虫防除	<p>ア かんきつ類 (ア) かいよう病 5月は越冬病斑から病原細菌の流出量が徐々に増加し、新葉への感染が始まる時期となることから、新梢への感染防止対策として、開花前と落弁期直後にICボルドー66D 80倍（パラフィン系展着剤加用）等の防除を行う必要がある。また、罹病枝葉（特に夏秋梢）を除去するとともに、防風ネットや防風垣を整備すると良い。</p> <p>(イ) 灰色かび病 開花期の前後に降雨や曇天が多く、低温多湿な気象条件で多発する。花卉の落ちにくい温州みかんや「清見」などで被害が多い。防除は満開期から落弁直後にフロンサイドSC 2,000倍やファンタジスタ顆粒水和剤 4,000倍などを散布する。</p> <p>(ウ) そうか病 伝染源となる病原胞子は多湿条件で形成されるため、多雨時や霧が発生する時期に多発する。葉や果実、枝に病斑をつくり、新芽が伸び始めた頃に降雨があると、発芽した新芽に感染し、その上にまた新しい胞子を形成して二次感染を繰り返す。薬剤防除は、落弁期にナリア WDG 2,000倍やファンタジスタ顆粒水和剤 4,000倍などを散布する。</p> <p>(エ) 訪花害虫・アザミウマ類 主な加害種はケシキスイ類やコアオハナムグリで、吸蜜時に果実になる部分にツメでかき傷を付ける。アザミウマ類も外観品質を損ねる要因のひとつであり、これらの防除は、飛来数が多くなる前の2～3割開花時にエクシレルSE 5,000倍やオリオン水和剤 40 1,000倍などを散布する。</p> <p>(オ) チャノホコリダニ 常発園や前年の発生園では落弁直後（5～10日後）に、サンマイト水和剤3,000倍やフロンサイドSC 2,000倍などを散布する。</p>



写真2 チャノホコリダニの被害果

項 目	作 業 内 容
	<p>イ 落葉果樹</p> <p>(ア) キウイフルーツ花腐細菌病</p> <p>本病の病原菌は雨によって増殖し感染する。感染時期は、開花前の裂蕾期頃が最も多く、がくが割れてから開花の間に雨が多いと発生が助長される。そのため、開花前の5月中旬にアグリマイシンー100 1,000 倍などを散布する。また、5月上～中旬（満開20～25 日前）に、主幹部に環状剥皮処理（3～5 mm 幅）することで発病を抑制することができる。しかし、環状剥皮は、樹勢低下を招く恐れがあるため、樹勢の弱い樹や発病の少ない園、キウイフルーツかいよう病の発生が懸念される園では処理しない。</p> <p>(イ) キウイフルーツかいよう病</p> <p>本病への予防や被害の拡大を防ぐため、銅剤等による薬剤散布の徹底に加え、定期的に園地の巡回を行い、発病の早期発見に努める。特に、新梢伸長期から開花期にかけては感染リスクが高いため重点的にモニタリングを行い、葉や花蕾の褐変、枝幹等からの樹液の流出、新梢の枯死といった症状が確認された場合には、症状が確認された部分を切除する。</p>  <p>写真3 葉の褐変症状</p> <p>(ウ) かき炭疽病</p> <p>本病は枝や幼果、成熟果および葉柄に発生し、発病部分には雨が降った後に赤橙色の塊状胞子が観察される。新梢発育期となる5月には、ジマンダイセン水和剤 600 倍などを散布する。また、発病枝は早期に除去する。</p>

(作成 果樹研究センター)